

成果の説明書

(氏名) 関口 智子	(学部) 地域政策学部
1 重要事項	
<p>(1) 英語カリキュラムの運営</p> <p>2020年度は、新型コロナの感染拡大により全面的にオンライン授業となったが、2021年度は原則対面授業が復活した。しかし、基礎疾患等健康上の懸念がある一部の教員はオンライン授業が認められたため、10クラスほどが遠隔で実施された。教員は自宅から、学生はPC教室からZoomにアクセスして授業を行うため、そのためのマニュアルを作成し、教員および学生に配布した。</p>	
<p>(2) 非常勤講師の対応</p> <p>年度の途中後期より、体調不良などの理由で一部の非常勤講師から出講辞退の申し出があり、代替講師を配置し対応した。</p>	
<p>(2) 研究</p> <p>通訳翻訳理論で、ダニツァ・セレスコビッチの「意味の理論」で想定している通訳翻訳における「脱言語化」(「非言語化」)のプロセスに関して、以下の論文2本を執筆した。</p> <p>出版論文： 「英日通訳翻訳における脱言語化」『地域政策研究』第24巻第3号、高崎経済大学地域政策学会 pp.1~pp.13、2022年1月</p> <p>「翻訳通訳クラス履修学生の訳出に見る『脱言語化』の影響」 『マテシス・ウニウエルサリス』第23巻第2号、獨協大学国際教養学部 pp.249~pp.258、2022年3月</p>	
2 その他の事項	
<p>学生通訳コンテスト出場に向けた指導</p> <p>2021年度は11月27日(土)に、全国外大連合連携事業として第15回学生通訳コンテストが、「The Quest for Humanity's "New Normal" (「新たな日常」と人間性に向かって)」というテーマで開催された。本年度も開催校の名古屋外国語大学より、コンテストの推薦枠(1名)をもらい、本学の学生1名を推薦した。今年もコロナ禍の影響により、昨年につきZoom開催となった。コンテスト出場にあたり、今年度は明海大学および獨協大学の学生とスタディーグループを作り、8月から週に2回担当教員がZoomで指導を行った。また、学生だけで勉強会を実施するなど、大学間の垣根を超えて共に勉学し交流する機会を設けた。</p>	
3 次年度以降の計画・抱負	
<p>2017年度に開始された両学部一元化英語カリキュラムは5年目を終えた。必修英語の統一プログラムで使用している共通テキストは、内容が多少古くなっているため、テキストの見直しが必要である。新たな版が出版されているテキストもあるので、今後の検討課題としたい。</p> <p>また、昨年度同様、新たな非常勤講師の採用、シラバスの再検討、クラス担当者の配置など、現カリキュラムが円滑に実施されるよう取り組みたい。</p>	